

# 肘歴通信 第廿五號

## 「昔にあった旅館」のこと(其之壱)

(今回も敬称は省略しております。ご容赦ください)

温泉街に壮然と立ち並ぶ旅館群。

ずっと昔から変わらないようであり、  
実は少しずつ変化してきているのです。

ぶんごや

### ・ 豊後屋宿坊(密蔵院)

時期：室町初期(1400年頃)～明治32年

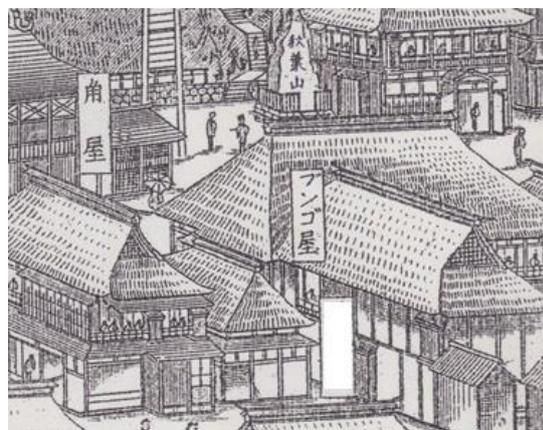
廃業理由：不明

場所：現・丸屋旅館

人別：神野 半十郎

備考：肘折開祖源翁の末裔を名乗り、屋号も源翁の出身地である「豊後国(大分県)」からとったものと思われる。

江戸～明治には、常に肘折温泉の長老的存在であった。明治8年に改名して「神野」となったがそれ以前の名は判らない。



さざえもん

### ・ 旅人宿 三原佐左工門

時期：室町中期(1500年頃)～明治28年

廃業理由：当主死亡

場所：現・肘折ホテル本館

人別：三原 佐左工門

備考：江戸時代、新庄藩主戸沢公一行が宿泊した旅館四軒の一つ。明治26年に初代肘折郵便局を玄関脇の一室で開業した。明治28年末に当主が病死し、旅館を廃業。明治33年まで郵便局として営業したが、村井六助に郵便局を承継し、肘折を去る。大正元年、温泉組合資格を新加入の三原権四郎(丸屋)に譲る。



## ・ 藤屋旅館(藤栄屋?)

時期：室町末期(1600年頃)～大正2年

廃業理由：源泉枯渇・商売替

場所：ほていや商店・さばねや商店

人別：齊藤 佐次兵衛



備考：江戸時代、新庄藩主戸沢公一行が宿泊した旅館四軒の一つ。  
明治末、組合員に同士よる濫掘で自家源泉が枯渇。旅館を廃業し、**ほていや商店**になる。

## ・ 小松屋旅館

時期：江戸中期(1700年頃)～大正2年

廃業理由：引っ越し?

場所：現・西本屋旅館

人別：横山 太兵衛



備考：江戸時代、戸沢藩から**大山守**(材木伐採の許可を出す管理職)を任され、地区内でも、惣代等の重要な役割を担ってきた。  
大正2年頃、突然に西谷惣吉と家を交換した。

高美屋  
高山武右衛門  
小松屋  
横山太兵衛

三春屋  
三原治郎兵衛  
武田屋  
武田惣治

## ・ 武田屋旅館

時期：室町末期(1600年頃)～大正中期

廃業理由：経営不振?

場所：現・村営バス待合所付近

人別：武田 惣治



備考：実は、**甲斐(米沢?)武田家**の流れを汲んでおり、本家が織田に滅ぼされた後(1582年)に移ってきたという。(平成初期の郷土史研究ノートより。)非常に大きな立派な旅館と屋敷だったそうです。

続きはまたの講釈。

肘折歴史研究会